

2010 年度実行委員会 議事録

2010.10.18 v2 (8) に追記

日時：2010 年 10 月 9 日 (土) 13:00～17:30
 場所：名城大学名古屋駅前サテライトキャンパス
 SIA ビル 13 階

参加者：※座席と対応

北原	高橋	西田	宮崎	山田	石川	千葉	水野	小田
運涉外	理事運	関西	関西	東海	静岡	静岡	東海	東北
			レ技	サ技		サ技	レ技	
							国 TC	

丹羽 ダ技 国 TC

ス
ク
リ
ー
ン

樋川 四国
政岡 四国 サ技
竹間 関東

金田	野村	吉本	畑	中村	吉楽	山野	玉島	水川
運国内	運国際	京滋奈	北海道	九州	北信越	広島	兵庫	岡山

(0) 出席の確認と進行の確認

- ・全体進行を金田 (運営委員), タイムキーパーを高橋 (運営委員) が担当
- ・書記として野村 (運営委員) を選任
- ・出席者は上の通り。

(1) ブロック, ノードの確認 (金田)

北海道ブ 札幌 函館
 東北ブ 仙台 盛岡
 那須郡山ブ 3 ノード ※宇都宮ノードは関東ブロックではなく那須郡山ブ
 関東ブ 東京都 神奈川 西東京 埼玉 千葉 群馬 茨城
 静岡ブ 沼津 磐田
 東海ブ 10?
 北信越 上越 中越 下越 長野
 石川ブ 金沢 小松
 京滋奈ブ 京都 志賀 奈良 東近江 彦根
 関西ブ 堺 大阪中央 大阪東 大阪北 和歌山 (大阪西 堺東)
 兵庫ブ 北近畿 南兵庫
 広島ブ 広島 福山
 岡山ブ 岡山 倉敷
 鳥取ブ ←倉吉 (前特別)
 四国ブ 香川 愛媛 徳島 高知
 九州ブ 福岡 北九州 (大分 鹿児島 長崎)
 島根ブ ←隠岐 (2009 特別)
 中丹ブ ←舞鶴 (2009 特別)
 沖縄ブ ←沖縄 (2009 特別)

(2) 技術委員の確認 (金田)

サッカー技術委員
 吉本 委員長 (京滋奈)
 山田 副委員長 (東海)
 千葉 副委員長 (四国)

政岡 副委員長 (静岡)

※副が複数いる理由は、サブカテゴリが多く存在するため、役割分担するため。副の役割や割振りは今後検討する。

※副が複数人置くことは、どのチャレンジでも可能。

レスキュー技術委員

宮崎 委員長 (関西)

青木 副委員長 (関東)

※今後、レスキューA と B の両方が実施されることになるとサッカーと同様に副を複数置く可能性もある。

ダンス技術委員

長田 委員長 (関東)

村上 副委員長 (関西)

※各チャレンジともに、「副」は「正」の補佐をすることが主な役割。権限については、「正」から委任があった場合には「正」に代わって「正」相当の仕事をすることができる。

(3) 合宿の報告と今後 (北原)

- ・アンケートの結果
 - 合宿内容に対して好意的、意義を認めている
 - 継続の希望大
 - 有料化へは肯定的な意見が多い

※詳細は Web 上でも報告

(4) ルールの確認～各チャレンジの国際 TC での動向

◆ダンス (丹羽)

- ・特に大きく変わるところはない
 - シアターとダンスの区別は踏襲
 - (2011) 現在、次のような台数制限が検討されている
 - ・台数は Max8 台とする。
 - ・もし 1 台のコントローラーが 2 台のロボットを動かしていた場合、ロボットは 2 台と数える。

- ・音楽の著作権の処理
 - 著作権の問題が起きない楽曲を選択して欲しい
 - 原則は各チームで処理

(2010 日本大会) JASRAC は一括申請

変更した楽曲については各チームで申請

- ・審査委員の選定について
 - 毎年選任が大変
 - ・負担が大きい (丸 2 日間)
 - ・ルールの理解が必要
 - これまでは…
 - ・地域の教育委員会の方
 - ・大学学校の先生
 - 実行委員で持ち回りでお願いできないか
 - ・(2010) ダンスチームが出ていないブロックのブロック長 (樋川さん) をお願いした
 - ・これを仕組み化できないか?
 - ・毎回 3 人程度
 - ・△ダンスチームが出ていないブロックのブロック長 (持ち回り)
 - ・◎過去の参加チームの OBOG に審査員に入ってもらおう
- ⇒OB 会など参加者 (卒業者) の組織化も視野に入れるとよい

OBOG に依頼する場合には、身分に応じて依頼の手順や待遇などについて仕組み化しておくとうい

- 1 人は大人（審査委員長の役割）が担当して欲しい

◆レスキュー（水野）

レスキュー A

- ・ 2010 から大きく変わらない

- (2011)セットアップ 2 分+競技 8 分 → セットアップ含めて競技 8 分

（タイル方式にしたためセットアップ時間を短めにできるなど運営上の理由から競技時間の短縮）

（2011）持ち上げると減点だけどすぐにリタイアすると減点されない→要改善（進行停止を繰り返しても最終的にクリアできれば 50 点をチームにあげるなど工夫を検討中）

（2011）Victim を置く場所をあらかじめ決めておきサイコロで決定

レスキュー B 2010 デモ→2011 継続実施

- ・ 参加者への告知をどうするか？
 - 選抜方法
 - チーム数（フィールド数）

◆サッカー（山田）

- ・ 次年度以降の参加制限、チーム編成の仕方について

==

1. 以下のルールを原則とする。

2. 以下のルールは、チームに対してではなく、各個人に対して適用される。チームの中での個人の役割には関係なく、そのチームの成績が、各個人に適用される。

3. ただし、個々の事情を勘案して、最終的な判断は参加者が属する各ブロックのブロック長が判断するものとする。

※もちろん、ブロック長は判断について技術委員会、実行委員会や運営委員会に相談することはできる。

※各ブロックで起きた特殊な事例については、適宜、技術委員会に報告していただく（事後、まとめてでも構わない）とともに、ブロック間で共有することを務める。

（ルール）

1) サッカーAライトウェイトは普及リーグとして、2011年・2012年とグレースケールにて競技を行う。

2) サッカーAオープンは中級リーグとして、2011年よりグリーンカーペットにて競技を行う。

3) サッカーBは上級リーグとして、世界大会のルールに準拠する。

4) サッカーAライトウェイトにて過去にジャパンオープンの決勝トーナメントに出場した選手は、サッカーAライトウェイトに出場できない。サッカーAオープンもしくはサッカーBに出場することとする。

サッカーAオープンにて過去にジャパンオープンの決勝トーナメントに出場した選手は、サッカーAライトウェイトおよびサッカーAオープンには出場できない。サッカーBに出場することとする。

5) サッカーAライトウェイトについては、世界大会出場チームに対してルールの差異などの対応に資する助言を各ブロックの技術委員が行う。

6) 上記項目は今後のロボカップ・ジュニアの普及と進歩のためには不可欠なものである。このことを国際TCを通じて世界にアピールし、世界大会でも準拠してもらえるように働きかけを行う。

7) このルールを原則2011・2012年ジャパンオープンで適用する。世界大会のルールが変わった場合、上記考え方を大幅に変えない範囲でルールを適用する。2013年以降のルールについては、2012年ジャパンオープンで決定・告知がされるよう、それまでに検討を行う。2012年以前にルールおよび考え方を見直す必要があれば、実行委員会の決定により技術委員会で検討する。

※補足事項として、具体的なケースについて追加する。

==

- ・ 現在国際 TC では、次年度の国際ルールの検討が進められている（野村）
 - (2011)大きなところでの変更はないが、2010 年度のサブカテゴリーとボールのモードの対応については再検討する予定
 - (2011)大会運営方法としてスーパーチームの方法を、より広いフィールドを使って 4 台対 4 台等の対戦形式とできないか検討する予定
- 2010 世界大会では、すでに小型機フィールドにてデモンストレーションを行った。参加者からも高評価であった（YouTube に動画あり）

(5) ルールの決定スケジュール

- ・ 2011 ジャパンオープン 未定（これまでの流れでは大阪市の予定）
- ・ 2011 世界大会 トルコ イスタンブール

2011 日本大会のルールは、

- ・ 12 月 31 日までに 2011 国際ルールが確定すれば原則 2011 国際ルール
- ・ もし確定しなければ 2010 国際ルール

を適用する。

ただし、新しいカテゴリができることが分かった場合には、個別にチームの選抜方法等を技術委員、実行委員で検討する。

※仮に新しいカテゴリについて世界大会にチームを選抜、派遣する場合には、その費用負担は各チームが負うものとする。

※新しいカテゴリについて 2011 世界大会選抜の枠数については、2011 日本大会で開催する総会において確認、決定する。

2011 ジャパンオープンの実行委員会が組織され、ジャパンオープン準備のためのスケジュールが確定した段階で、各チャレンジで日本大会でどの競技カテゴリを実施するのか、フィールド数等については技術委員会で検討し決定する。

(6) 広報委員会の組織化について（北原）

- ・ 広報委員の仕事は多岐にわたる

※添付資料としてこれまでの広報委員、渉外担当としての仕事を一覧しているので参照（北原）

- 対外的な仕事と内部でのルーチンワークとを分離していきたい
- 広報委員会の中で HP の管理は別途ワーキンググループを作り広報委員以外にも HP 担当者を交えて実効性のある組織としていく

◎ジュニアジャパン HP 運営の方向性

- 各ブロックの広報委員 HP 担当はジュニアジャパンの広報委員 HP 担当を兼ねてもらおう方が情報の一元化をしていきたい

現在、関東、関西、広島、兵庫はブロック内に HP 担当がいる→ジュニアジャパンの HP 担当を兼ねられないか？

⇒今後の方針として、

- ・ 各ブロックからジュニアジャパンの HP 担当をできるだけ選出していただく
 - ※広報委員は必ず 1 人は選出していただく。
- ・ 各ブロックおよびブロック内ノードとその担当者は連絡を密にし、情報に齟齬がないように務めていただく
 - ※仮に直接ブロックから HP 担当を選出できない場合は、広報委員および実行委員（ブロック長）を通して必ず情報の共有や、情報開示のタイミングを適切にしてください。
- ・ 各ブロック／ノードの HP 担当者がジュニアジャパンの HP 担当を兼ねていただいても構わない

を決定したい。

- HP 担当者はジュニアジャパンのホームページ管理をする
- 各チャレンジのセクション⇒各技術委員会が編集
- 事務局セクション⇒事務局が編集
- #事務局とは誰、どこを指すのか？

(7) その他 (含む関東ブロックからの質問)

- ・外国籍の参加者
 - 日本人と分け隔てなく扱う
 - 世界大会に参加した際には「日本代表」として参加していただくことになることを確認する
- ※すでに日本の子どもが海外のチームと一緒に混成チームをつくり海外の枠 (別の国の枠) で参加した実績はある
 - 国籍を問わず海外のチームとして海外で予選に参加して負けたので日本で予選に出るという重複参加は、現時点では認めるものとする
- ・世界大会参加チームの枠について
 - 国内の活動実績によって世界大会キャパを比例配分
 - 各国を代表するチーム (日本であれば日本国内のチーム) の日頃の活動の努力 (普及) が参加枠を多く得るための鍵
- ・上位大会、合宿の報告について
 - 誰に対しての報告によって報告の内容は変わってくるであろう
 - 公式に出してよいもの、公式に求めるもの、参加者が出したいもの
 - 例えば、大会に参加をしたチームにはプレゼンテーションを必ず Web サイト上に載せるなど、仕組みとして検討できることがある
 - 上位大会に参加したチームがブロック/ノードで情報交換をする
- ・チームメンバーの変更について
 - 世界大会参加チームに対する規定はすでに次のようにすでに定めている

==

○世界大会参加チームメンバーの入れ替えの原則(2009.5.24 追加)

世界大会参加チームの一部が都合により出られなくなった場合、入れ替えが可能なのは、原則、次の者に限る。

* 日本大会参加チームのうち、世界大会に参加できない事由 (予算、学校等本来の活動を優先するため等) があつたためにやむなく辞退せざるを得ないメンバーが居る場合でかつ人数が不足することで世界大会において十分なパフォーマンスを発揮できないとチームが判断する場合のみ、入れ替えができる。

* 上の事由を持つ者の数がメンバー数の最大 1/2 を越えない人数までは、ブロック大会に参加していたが日本大会会場に来られない事由があつたためやむをえなく日本大会のメンバーに関わっていなかった者、もしくは、日本大会までのチームの活動に大きく貢献し代役として十分に役割を果たせるとチームが証明できる者と、入れ替えが可能である。

* それ以外、必要に応じて実行委員会で審議した結果入れ替えが認められた者。もしくは実行委員会が運営委員会に判断を一任する場合には、運婦負委員会で審議した結果入れ替えが認められた者。

○世界大会参加チームへのメンバー追加の原則(2009.5.24 追加)

世界大会参加チームが、新たにチームにメンバーと加えられるのは、原則、次の者に限る。

* ブロック大会まではメンバーであつたが、日本大会会場に来られない事由があつたためにやむをえなく日本大会の参加メンバーとして加わっていなかった者

* それ以外、必要に応じて実行委員会で審議した結果追加が認められた者。もしくは実行委員会が運営委員会に判断を一任する場合には、運営委員会で審議した結果追加が認められた者。

http://www.robocupjunior.jp/com/modules/menu/main.php?page_id=19&op=change_page
==

- 日本大会参加チームに対する扱いは上に準ずるものとし、各ブロック内で判断するものとする
 - ・ジュニアジャパン実行委員会としては各ブロックからの推薦を尊重し、各ブロック長の判断に任せる（責任もブロック側にある）
 - ブロック大会参加チームの扱いも同様に各ノード内で判断するものとする
- ・来年度の合宿について
 - 立候補を希望される地域が複数ある（北原）
 - ※10/9 実行委員会の場では九州ブロックから申し出があった
 - 年内には来年度の計画を出したい
- ・日本大会への海外チームの参加について
 - 「オープン」をうたっているため海外からの参加希望には積極的に対応する方針（シニアも含めて）
 - 参加費は参加チーム持ちであるため、自主性を尊重する
 - 一方で海外チームと日本チームの交流方法については、一層の充実を図って行く必要がある

(8) 平成 24 年以降に向けての検討事項

・現状の確認～平成 22 年度の予算額と今後の主な大会

*平成 22 年度

【2010 大阪工業大学】

ジャパンオープン	会場設営	930 万円	(ジュニアだけ)
	フィールド, サイン看板等, 電設, 警備		
	謝金	170 万円	(審判スタッフ 約 100 名)
	交通費	70 万円	
	宿泊費	16 万円	

(収入)	参加費	220 万円	(ジュニアだけ)
------	-----	--------	----------

【2010 シンガポール】

世界大会支援	320 万円	(参加者支援)
--------	--------	---------

【2011 ブロック大会】 ⇒JST 経費支援ナシ

- JST からの補助金の減額に伴い、平成 23 春に開催のブロック大会に支援がない事が確認された。

*平成 23 年度 ※JST 支援最終年度

【2011 日本大会 ??大阪??】

【2011 世界大会 イスタンブール】

*平成 24 年度 ※JST 支援終了後

【2012 日本大会 ??????】

- 3 月以前開催に移動すると JST 支援最終年度内に開催でき支援対象とできる可能性がある。

【2012 世界大会 メキシコ】

・今後日本大会を円滑に運営していくためには

《大きな議題》

「『日本大会の運営』がジュニアジャパンの第1の目的」とすると・・・⇒今後継続的に日本大会が運営できるための具体策の検討が急務

- 日本大会の開催時期は？ = 連休分散の問題
- 日本大会の規模（参加チーム数、）
- シニアと同時開催とするか？
- 予算の確保方法は？ = JST 支援がなくなる★最重要
- ・ 議論を開始
 - 平成 22 年 12 月 or 平成 23 年 1 月までにブロック／ノードで議論
 - ※末尾に 10/9 に運営委員から提案した試案を掲載
 - ※ただし、これにこだわることなく、柔軟に目的を達成するための方法をたくさん挙げていただき、方向性を探っていければと思います。
 - 平成 23 年 1 月頃に実行委員会を招集予定→平成 23 年度、平成 24 年度（以後）の活動計画の決定
- ・ 運営委員の選挙（現在の運営委員の任期は平成 23 年 5 月まで）
 - 平成 23 年 1 月に立候補，2 月に決定
 - 平成 23 年度の日本大会は新体制
 - 運営委員（だけでなく技術委員，実行委員も含めて）の世代交代を進めて行くためにも（技術委員長が正副を置くように）次の人材の育成を進めて行くことも考える必要がある

配布資料：

==

（10/9 運営委員提案）

平成 23 年（イスタンブール）～平成 24 年（メキシコ）の期間の私案

●ロボカップジュニアジャパンの目的

1. 日本大会の運営
2. 日本における普及活動（合宿含）
3. 世界大会への推薦
（ロボット教育を通じた人材育成）

●運営委員会（内閣）

- ・ 国内担当（運営委員長）：日本大会の運営，指名権，各ブロック・ノードの情報把握
- ・ 国内担当補佐（運営副委員長）：国内担当の補佐
- ・ 国際担当：世界大会への登録の補助，Nat.Rep.(世界大会の国の枠,世界大会の会議出席)
- ・ 事務局長

会計担当（専属事務員）・・・人件費必要

会費徴収（ブロック大会から）並びに会員サービス（ブロック大会以上の成績証明書）

<参考>現在は，日本大会出場証明書の発行（ハガキサイズ）

一般入場者の増強（見せ方，TV ラジオなどの広報）・・・お金がかかる

<運営委員会直下（名称未定）>・・・できれば実行委員（ブロック長）にお願いしたい

- ・ HP 担当：全ブロックのHP 担当が入る
- ・ メーリングリスト管理担当
- ・ 選挙管理担当（投票の管理）
- ・ パブリッシュ担当（パンフ作成ほか）
- ・ 合宿担当（ブロック上位者以上）
- ・ 大会チーム登録担当
- ・ 新規ブロック，ノード相談担当
- ・ 物品貸出担当

<上記以外の現在の渉外担当の活動内容>

- ・ 各地の教育関係者，行政への売り込み（新規開拓）
- ・ 日本大会に対する補助金申請
- ・ ノードブロックの補助金申請の支援

●実行委員会（国会）

- ・技術委員会：日本大会におけるルールの審議と各チャレンジの運営

委員長：当該技術委員会のまとめ役

副委員長：委員長の補佐，代理

- ・ブロック長：日本大会におけるルールの決定（承認），日本大会へのチーム選抜

*平成23年5月開催（シニアと同時開催？，総会開催），補助金有

*平成24年3月末開催（シニアと分離，総会開催，新役員決定，候補地は複数有），補助金なし

3月29日(木)・30日(金)・31日(土)，4月1日(日)

<予算案>

収入：500万円

- ・ブロック大会参加者からの徴収： $3000円 \times 2/3 = 2000円 \times 1500人 = 300万円$ ⇒日本大会

運営費

（日本大会の参加費をとるかどうか？）

- ・スポンサー費 200万円

支出：

- ・運営費：人件費＋物品費＋会場設営費

- ・会場費：4日（準備1日，予選2日，本選1日）

予選の日数を増やす意味：インタビュー時間の確保

- ・人件費（交通費，謝金）：今年260万円（3日間）

==